

銅地金 輸出増 国内需要不振で海外に振り向けか

銅スクラップ需給は供給過剰

橋本健一郎氏レポート①



■概況
十月前半は、国際通貨基金(IMF)のラガルド専務理事が、世界経済の成長率見通しを引き下げたこと、二〇一五年のロシア経済成長率見通しを1%から0.5%に下方修正したことや、九月のユーロ圏製造業PMI改定値は五〇・三に下方修正、一四カ月ぶりの低水準。

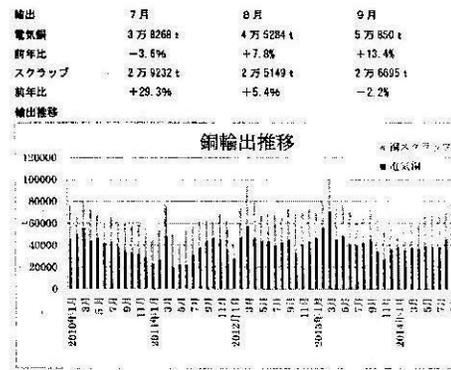
九月の米ADP民間部門雇用者数は二一・三万人増加、(予想は二二万人増)などのマイナスマaterialもあつたが、九月の独卸売物価指数は前月比〇・一%上昇、予想を上回つたこと、米FOMC議事録で事実上のゼロ金利政策が続くと示唆されたことから、LME銅相場は小幅UP、十月十五日時点、六、七八〇・五〇ドル(セツル)と月初価格より四四・五ドルUPの前半締めとなつた。

後半は米連邦公開市場委員会FOMCで十月いつばいで量的緩和QE3に伴う資産購入を終了すると決めたことや、予想より早い利上げの可能性が示唆されたこと、米商務省発表の九月の小売売上高は前月比〇・三%減と予想以上に減少(事前予想は〇・一%)などのマイナスもあつたが、インドネシアのグラスベルグ鉱山でのスト懸念、ペルー最大のアンタミナ鉱山でもスト懸念、加えて中国国家備蓄局(SRB)が銅の備蓄購入を企図していること、日銀が三十一日金融政策決定会合を開き、マネタリーベースの増額目標を現行の年間六〇兆七〇兆円から、年間約八〇兆円に増やす追加緩和策を決めたことから、LME銅相場はUP、十一月四日現在、後半スタート価格から二〇ドルUPの六、八〇一ドル、銅建値八二万円スタートとなつた。

- 前月の経済指標
 - 月間のドル/円レート(TTS) 一〇六・八五→一〇一・一七(円)
 - 自動車生産台数 日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比二・六%減の八五万一、〇五一台であつた。
- 自動車販売台数 日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比九・一%減の二四万〇、五一一台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一四・三%減の七万五、八八二戸であつた。

◆貿易関連指標
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二・四%増の五万〇、八五〇t、スクラップが二・二%減の二万六、六九五t。輸入は電気銅が前年比一四・二%減の二、二九八t、スクラップ五九・〇%増の八、四〇四t。



■前月の国内指標
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比四・七%増の六万九、八三〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)銅電線出荷量は、前年比七・一%増の六万四、二〇〇tであつた。(六面へ続く)

四面より続く

■概況

九月の四輪車生産台数は八五万二、〇五一台で、前年同月の八七万三、七四四台に比べて二万二、六九三台・二・六％の減少となり、三カ月連続で前年同月を下回った。

九月の車種別生産台数を前年同月比は次の通り、乗用車七万四、二七七台で三万〇、八五一台・四・一％の減少となり、三カ月連続のマイナス。このうち普通車は四万三、三二〇台で二、四三三台・〇・六％の増加、小型四輪車は二万五〇〇、七四〇台で三万四、九八七台・一八・八％の減少、軽四輪車は一四万〇、一七七台で一、七〇四台・一・二％の増加。

トラック二万三、六六一台で六、六〇六台・五・六％の増加となり、二月月ぶりにプラス。このうち普通車は五万六、九六三台で四、四六五台・八・五％の増加、小型四輪車は三万〇、八七四台で二、六六一台・九・四％の増加。軽四輪車は三万五、八二四台で五二〇台・一・四％の減少。

バス二万三、一六三台で一、五五一台・二・三・四％の増加となり、二月月ぶりにプラス。このうち大型は八〇九台で四六六台・五・四％の減少、小型は一萬二、三五四台で一、五九八台・一・四・九％の増加。

九月の国内需要は五二万八、七七四台で、前年同月比〇・八％の減少であった。うち乗用車四三万二、八二三台で前年同月比三・二％の減少、トラック八万五、六一一台中二・三・二％の増加、バス一、三四〇台で同一九・七％の増加。

輸出は前年同月比三・三％の減少(実績)。

十月の国内自動車販売台数(軽四除く)は二四万〇、五一二台で前年比九・一％減と、三カ月連続のマイナス。うち乗用車一・三％減、貨物車六・六％増、バス一・五・四％増。

九月の住宅着工戸数は七万五、八八二戸(前年同月比一四・三％減)となり、また、季節調整済年率換算値では八・八〇万戸(前月比四・一％増)で、二月月連続増。

(持家)前年同月比では八カ月連続の減少(前年同月比三・三・四％減、季節調整済の前月比四・〇％増)。消費税率引き上げの影響を受けない前々年同月比二・五％減。

(貸家)前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月比五・七％減、季節調整済の前月比六・九％増。前々年同月比一四・六％増)。

(分譲住宅)前年同月比では八カ月連続の減少(前年同月比一五・三％減、季節調整済の前月比三・九％増。前々年同月比四・六％増)。

(分譲マンション)前年同月比では八カ月連続の減少(前年同月比二〇・四％減)。前々年同月比七・九％増。(分譲一戸建住宅)前年同月比では五カ月連続の減少(前年同月比一〇・一％減)。前々年同月比一・一％増。

伸銅品生産は前年比四・七％増の六万九、八二〇で、一五カ月連続プラス。このうち、内需は五万七、一六三で三％増と三カ月連続プラス。輸出は一萬二、六七七で二・九％増。二月月連続プラス。銅条二万二、七六〇で七・七％増と、一五カ月連続プラス。黄銅棒二万四、八三七で二・四％減と、二月月連続マイナス。板・条は、自動車、半導体向けを中心に堅調さが見られたが、黄銅棒は住宅関連の低調さを受けて調整が続いた。

銅電線出荷量は、前年比七・一％増の六万四、二〇〇t。うち国内六・一％増、輸出が三六・二％増。通信一〇・一％減、電力九・二％増、電気機械四・八％増、自動車六・六％減、建設電線九・三％増、その他内需一〇・五％増。

銅の輸出は、電気銅輸出が前年比二・三・四％増の五万〇、八五〇t。銅スクラップは一・二％減の二万六、六九五t。輸入は電気銅が一四・二％減の二、二九八t。スクラップは五九・〇％増の八、四〇四t。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き減少の二・六％減。また十月の国内販売台数も前年比九・一％減と悪化。販売の減少が続くメーカーもそれに伴い生産を調整した。輸出も二・三％減と悪化。今後の動向に注目したい。

・新設住宅着工戸数は前年比一四・三％減。季節調整済年率換算値で八八万戸(前月比四・二％増)。消費税前の駆け込み需要も終了。七月月連続減少。ただ、季節調整済換算では二月月連続プラスあり、今後の動向に期待する。

・伸銅品一五カ月連続増と好調。板・条は自動車、半導体向けを中心に堅調さが見られたが、黄銅棒は住宅関連の低調さを受けて調整が続いた。また住宅も下げ止まりの感もあり今後の動向に注目。

・鋼の輸出は自動車、住宅生産の減少による需要減や先行き不透明感から地金輸出が増加したとの見解。鋼の輸入は一時期に比べれば日高で推移していたことから原料手当てが増加したとの見解。

【価格：為替予想】

今月は日銀の金融政策に伴う為替の動向及び、米FRBの出口戦略に左右される。

日銀の黒田総裁は先月、金融政策決定会合を開き、マネタリーベースの増額目標を現行の年間六〇兆七〇兆円から、年間約八〇兆円に増やす追加緩和策を決めたこと、日経平均が一時七年ぶりの二万七、〇〇〇円台まで上昇、ドル円は六年ぶりの一四円台となった。ただ数日間の急騰であり、またFRBの量的緩和終了報道との相乗効果とも考えられ、一方的な上昇円安はないのではないか。

量的金融緩和の第三弾(QE3)に伴う資産購入を十月いよいよ終了したが、ゼロ金利政策について、量的緩和終了後も相当な期間、維持するのが適切だとの表現を据え置いた。金融政策の方向性を示す時間軸ラオワード・ガイダンスを変えず、利上げを慎重に判断する姿勢を改めて強調したことから急激な米景気後退はないとの見解。

それらを踏まえた十一月の銅価格は日銀の追加緩和策からの波及効果とさがる株価の上昇と円安が続き、米FRBの緩和終了を好感する形で米経済指標が堅調に推移した場合、LME銅相場は十月高値の一段高六、九〇〇ドルを予測し、それの場合台は六、七五〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合も一段安値の六、六〇〇ドル。

為替は米FRBの量的金融緩和の第三弾(QE3)に伴う終了と日銀の追加的金融緩和策の相乗効果で六年分の一四円台まで下落したが、欧州懸念に伴うユーロ安ドル高、円安の新規材料難、急落からの修正もあり、対ユーロのドル高から上値は九月高値の一〇七円台、下値は変化なければ、節目の一五円との予測(PTM)。銅建値に関しては七五〇〇〇八四〇円程度を予測して